



60代は最盛期、 私は第一線にいたい。 さて皆さんは？

悩みにどう向き合いますか。私は元々能天気な性格ですから、あまり悩むことはありません。自分ではどうにもならないことで悩むのはストレスがたまります。時間の無駄だし、考えるだけ損ですから、悩みやストレスの素から離れるようにしています。もちろん離れ方は考えますけど、ね。

人間関係や付き合い方で悩む人は多いと思います。社内や業界、同じ世代との付き合いはどうしても狭くて小さい世界ですから、人間関係も難しくなります。

若い頃は付き合う年代の幅が狭いですが、年齢を重ねるとその幅は広がります。私の場合もずいぶん広がって、親しくしている中には80代の方もいらっしゃいます。世代を超えて話をするとやはり刺激的で面白いです。

47歳になって、付き合いにも断捨離が必要な、などと考えることもあります。私の仕事は人脈が財産。人に優劣はつけられませんから付き合いは広がる一方で、思えば贅沢な悩みです。

桂文楽師匠にかわいがっていただいています。師匠は若い頃から売れっ子ですから、付き合いがひと際広い。私の贅沢な悩みについて尋ねると「大丈夫だ。自然に相手が亡くなるから」とさすの買祿で、自分がばかばかしくなりました。

家族との関係はどうでしょうか。30代は仕事が100%で、自分や家族のための時間はゼロでした。そうでなくてはならないと思いついてもいなし、仕事を増やすためにも必要でした。

転機は38歳で始めたラジオの仕事です。レギュラーですから仕事の時間が決まり、ようやく自分や家族のために時間を使えるようになりました。今は仕事と自分と家族のために時間を等分に使っています。林家たい平兄(あに)さんの言葉が忘れられません。

「いつも一緒にいる家族を喜ばせることができない噺家が、初めて会ったお客さんを笑わせられるわけがない」

定年後の自分をどう想像しますか。落語家の60代は芸に最も脂がのる時期。それまで培ってきたものが芸に出る年齢です。だから、家族も大切にしつつ第一線にいたいと思います。もしも世間に必要とされなければ、次の70代で売れるように計画を練り直しますよ、もちろん。さて、皆さんはどうですか。

三遊亭鬼丸 (さんゆうてい・おにまる)

1972年生まれ。長野県出身、さいたま市在住。故三代目三遊亭圓歌に弟子入り、97年に初高座。

2009年、NHK新人演芸大賞入選。10年、真打に昇進して「鬼丸」を襲名しました。

FM NACK5「GOGOMONZ(ごごもんず)」に出演中です。